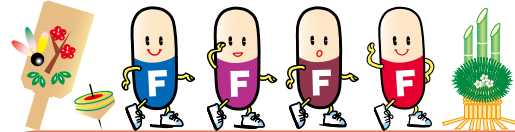
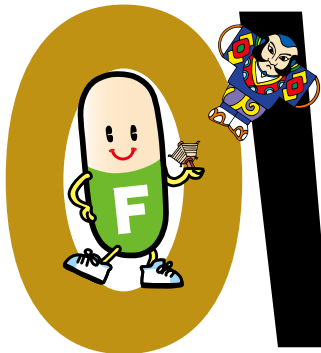


POWER!



冬

平成25年(2013年)
1月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
ケイアイ四谷ビル
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 1月・4月・7月・10月

http://www.yakuren.jp



Power
新年
対談

会長、6年制第一期生と語る

松本・渡嘉敷議員 当選!!

(記事7面)



● 出席者 ●	
児玉 孝	● 日本薬剤師連盟 会長
秋葉 麻依	● 国際医療福祉大学薬学部(千葉県) 6年制卒
加藤 真生	● 帝京大学薬学部(東京都) 6年制卒
砂押 康史	● 東北薬科大学薬学部(茨城県) 6年制卒
司会 荻野 構一	● 日本薬剤師連盟 常任総務

荻野常任総務(以下、荻野) 明けましておめでとうございます。

さて、今日は、6年制初の卒業生で、病院、薬局に勤務されているフレッシュな薬剤師の3人の先生をお招きし、児玉会長と対談いただくこととなりました。まず、児玉会長からご挨拶をお願いいたします。

児玉会長(以下、児玉) 新年あけましておめでとうございます。まだまだいろいろな慣れない時期だと思いますが、お越しいただき心から感謝申し上げます。今日はどんなお話をいただけるか期待しております。よろしくお願いたします。

荻野 それでは、自己紹介をお願いします。秋葉先生からどうぞ。

秋葉麻依氏(以下、秋葉) 千葉県鴨川市の亀田総合病院薬剤部に勤務しております。今は病院の注射調剤科で主に点滴を扱っております。

加藤真生氏(以下、加藤) 東京都国立市の富士見台調剤薬局から来ました。経験は少ないですが、患者様とのふれ合いに慣れながら実績を積んでゆくと調剤の考えもよっております。よろしくお願いたします。

砂押康史氏(以下、砂押) 茨城県水戸市の小山薬局に勤めております。今の仕事は主に調剤、監査、投薬、OTCを扱っている薬局なので1類医薬品の販売を行っています。よろしくお願いたします。

薬学6年制までの歩み

荻野 まず、児玉先生から6年制の実現まで、学校教育法、薬剤師法改正の経過、苦労などをお話しいただきたいと思っております。

児玉 意外かもしれませんが、日本医師会など医療団体の中で、日本で一番古いのは日本薬剤師会。明治政府はドイツの医療制度を入れ、医薬分業を導入した。しかし長い習慣はなかなか変えられず分業は進まない。どこで決着をつけるかという国会しかない。しかし国会議員でない限り国会で話せない、ということがあって、組織的活動を行う団体が必

要になり、医師会などより早く日本薬剤師会を作りました。

第二次世界大戦後、今度はアメリカの法令制度に学ぶこととなった。アメリカの後押しもあり、日薬も政治連盟を作った運動し、医薬分業法が制定された。しかし、力関係でうまくいかなかった。その後、薬剤師は病院では外来調剤に追われ、一方、町の薬剤師はOTCオンリー、雑貨とかも販売。そんな状態だから、薬学教育は創薬中心、臨床はほとんどありませんでした。

しかし、薬剤師の先輩方が努力し国政を動かして、医薬分業を進めた。医薬分業が30%くらいになってから少しずつ薬剤師も活躍できるようになり、病院の薬剤師は病棟に行き、町の薬局も処方箋を扱えるようになった。しかし、臨床の知識能力が十分とはいえない。また、医師や看護士などに対し、薬剤師だけが現場の実習も行わずに国家資格を取れる。それはおかしい、教育内容を変えてほしいという思いがあった。だが4年では足りない、だから6年制にしてほしい。しかし創薬中心で大学は反対。

そのうち分業が進んで薬局が就職先に一番多くなり、大学も薬局の意見が無視できない状況になった。厚生労働省は6年制OK。しかし薬学教育を所管する文部科学省がOKしない。予算を増やさないといけないから。文科省をどう説得するのか。国会議員の皆さんに6年制にすればもっと日本の医療は良くなることを説明し、発言してもらい、やっと国会で法改正ができた。日薬が6年制を要望してから約40年かかりました。

それにしてもよく間に合ったと思います。社会保障と税の一体改革は2025年を目指しており、その時には人口の30%以上が65歳以上になる。病院も地域も大変ですよ。そこでチーム

風力計



公益社団法人 日本薬剤師会
専務理事 寺山善彦

「コンプライアンス」について、薬剤師としては服薬コンプライアンスを指しますが、一般的には、企業コンプライアンスが知られています。企業の不祥事が発生し、厳しい批判を浴びる事案は後を絶たず、単なる事故として済むようなことでも、事件にまで発展し、時には企業の存続まで危うくなる場合があります。

企業におけるコンプライアンスがこれまで問われるようになった背景として、企業の社会に対する影響力が増してきたこと、規制緩和など経営の自由度が高くなるにつれて、自己責任が求められるようになってきたことなどがあげられます。コンプライアンスを直訳すると「法令遵守」となりますが、企業も社会の一員として責任を果たすべきとの世論の高まりとともに、企業のコンプライアンスは、法令遵守だけに留まらず、社内規程・マニュアル・企業倫理・社会規範の遵守といった、自発的な取り組みまで拡大しました。公正・適切な企業活動を通じて社会に貢献することこそ、企業が存在する意義であるという考えです。

薬剤師の社会的責務は、医薬品の適正使用と安全性を確保し、医薬品の最大効果を引き出すことによつて、人々の生命と健康を守ることです。薬剤師は、様々な法令に基づいて業務を遂行しています。服薬コンプライアンスはもろろん重要ですが、医学・薬学のシンボルとされている「白へび」の年の初めに、信頼される薬剤師として、社会が私たちを見ている。薬剤師の「コンプライアンス」について考えてみることも課題だと思えます。

【訂正】2012年秋号の風力計にて、昭和40年に処方せん料が50%引き上げられたと記載いたしましたが、昭和49年の誤りでした。執筆いただいた藤垣氏の原稿では昭和49年となっております。誠に申し訳ございませんでした。



医療でなんとかしようと話しかけられていたが、薬剤師も今は6年制で臨床教育も受けてますよ、だからしっかり使ってくださいと言ってるんです。

6年制薬剤師の実習体験

荻野 実際に6年間薬学部で勉強してきた、実習を体験されてどう感じましたか？

秋葉 病棟にまで薬剤師が出ていると聞いていなかったのですが、実習で病棟の間もあり、薬剤師が色々介入していいと思えました。一方、薬局実習では地域密着型を体験できたことが良いと思えました。患者様が持ってくるお薬で、「ほかの病院でこれもらっているんだけど」「と言われ、「それ先生に話しましたか？」と伺うと、「いや話していません」と。他の病院でもらった処方箋も、かかりつけ薬局をもっていただいていたその患者様一人を全体でみられたらいいなと感じました。

荻野 病棟の業務ではすべて経験できるわけですね。

秋葉 一人の患者さんを全て時系列で追っていくのがいいなと思います。

加藤 最初2・5か月は長いと思ったが、実際にやってみると短く、もっと学ぶことがあったと思います。病院では抗がん剤の混注などもやらせていただいた。病院実習の時は他の大学の4名と一

緒で、触れ合えて良いと思えました。薬局実習では震災と重なり、停電になった時に、薬剤師の先生方がすぐに、「冷所保存の薬どうしようか」とか言うのを聞いて、「あ、そういう事を考えるのか。これが薬剤師なんだな」と思いました。

砂押 私も最初は2・5か月は長いなと思って臨んだが、しっかり学べてよかったと思います。粉薬やシロップの調剤も実際の指導の下で何度もやったので、即戦力としてやる事ができた実感があります。大学とは違う視点で製品ごとの特長などが学べるので、就職したあとに活きました。応用的なことは聞いてやらなければならぬが、基本的なことの知識は2・5か月やって良かったなと思います。

児玉 実習前の病院と薬局と、どちらのほうがイメージが大きくなりました。

秋葉 薬局に行ってみて、患者ごとに薬歴を作るなんて知らなかったのですごく大変だと思いました。病院はある程度イメージ通りでした。

加藤 病院はこんなに忙しいのかと思いました。1年目の先生とは、朝、実習生より早く来て、夜、実習生より遅く帰って、いったい家に何時間いるのかなと思いました。向上心がある先生ばかり、熱意があるんだと感じました。

砂押 実習前は、病院の方が薬局よりすごいというイメージがありました。実際は、病院は病院で専門的なことをやる先生がいて、病棟にあがったりしてすごいと改めて思ったが、薬局の方も、処方箋を見て、その処方箋に間違いがないかを短時間でチェックして、服薬指導などときはきやっておりますかいいなと思いました。

児玉 病院には病院の大事さがあり、薬局には地域医療の薬局という役割がある。両方を実習で見ることが非常に大事なんです。

病院・薬局に勤めて

荻野 秋葉先生、病棟業務の大変さや苦勞話、やりがいなど感想をお聞かせください。

秋葉 ローテーションで各部署をまわっています。最初、消化器内科でした。もともと薬剤師が常駐していないところだったので、薬剤師が常駐するという状況を医師や看護師さんにわかってもらうことが大変でした。そこでこちらから話しかけるようにしました。向こうからも「この方、吸入がちゃんとできてなさそうなので確認してもらえますか」など依頼されるようになり、どんどんコミュニケーションがとれるようになりました。今は注射調剤科ですが、そこで担当しているのが血液使用内科という特殊な病棟です。そこも薬剤師が常駐していませんでしたが、看護師さんから患者さんの持参薬の確認の依頼を受けるなど、やりがいを感じています。

荻野 在宅医療がなかなか全国で進んでいません。在宅に限りませんが、まずは地域の人々に薬局の薬剤師の役割をどう分かっていただくのか地道な作業が大事になっていくと思われまます。患者さんに対して薬局がどう対応したらいいかなどお聞かせください。

加藤 私はまだ実際にはやっていませんが、勤務している薬局では在宅をやっている、施設と居宅に行っております。また、この患者さんには一包化することか、患者さんの必要、目線に合わせて丁寧な対応をすることが大事だと思います。患者さんに相談されると信頼されていると感じるし、医師には聞きにくいことも薬剤師なら聞きやすいと思われまます。

感じてくれているのかなと思います。

砂押 まだ経験が浅く、患者さんとコミュニケーションを図れているかという点はまだですが、定期的に来られ仲良くなった患者さんだと、例えば薬の内容や説明は同じでも、血圧の薬を飲んでい

るのに下がらない、ドクターに相談したが、忙しくて血圧も安定しているからといういつもの薬を出された、というような時に相談に乗ったり、生活習慣、食事についても具体的なアドバイスをした。薬のこと以外でもサポートが出来て、やりがいもありよかったです。

OTCに関しては、どのOTC薬を使用したらいいか、アドバイスすることに苦勞しています。

日本薬剤師会・日本薬剤師連盟の活動

荻野 これから6年制薬剤師がどんどん増えてきますが、薬剤師に活躍していただくために薬剤師会は様々な課題に取り組んでいます。児玉会長からこれらの課題についてお話をいただけますか。

児玉 日本薬剤師会では、薬局薬剤師だけでなく、病院薬剤師も含めた様々な活動をしています。病棟活動のお話がありましたが、病棟活動をしやすい環境づくりをする。例えば、病棟の薬剤管理点数、その点数についての行政への直接的な働きかけは、病棟から資料をもらって、薬剤師職能の窓口である日薬会がやりました。



また、国立病院薬剤師の給与は、国家公務員の俸給表で決まっているが、ペー

スが低すぎる。これから出てくる6年制薬剤師に対してこんな低い評価は困ると政府に陳情しました。国の財政も厳しい状況にあり大変苦勞しましたが、今年の2月1日にギリギリ間に合い、173、800円を20万余円になりました。日薬連盟、日薬が一緒になってやったわけです。この成果は地方自治体病院など全国の70%の病院に影響するのです。

OTC薬については第一類が少なすぎる。それを増やすための努力をしています。セルフメディケーションは地域の薬剤師の重要な仕事です。患者さんにアドバイスをしたり、お医者さんを紹介したり、OTCやサプリメントで対処する。先制医療という言葉があります。発症する前にどういう予防ができるかということ、それがいわゆる先制医療ですね。でもその意味は幅が広い。地域版として、医者さんに診てもらおうのが嫌いな「疾患予備軍」がいっぱいいる。地域の薬剤師の仕事の中で、健康増進に役立つアドバイスをしたり、「ちゃんと飲まないと駄目だよ」とアドバイスするなどがこれから増えてきます。受診すべき人を発見して、早期の受診を勧める。そういう時代が間違いなくくるだろうね。

更に、地域の薬剤師の仕事は、地域との関わり、学校薬剤師の仕事、薬物乱用防止キャンペーン、老人クラブでの薬のアドバイスなどたくさんある。他にも日薬の仕事として、文部科学大臣に学校薬剤師の仕事の説明したり、薬学教育の実習にかかる費用についてお願いしたりし

ています。また、病院のヒヤリ・ハット事例のNo.1が薬で、全体の33.3%を占める、ちゃんと薬剤師を病棟で使っていないからですよ、と説明する。日薬はいわば薬剤師を売り込む営業マンですね。

日本薬剤師連盟って知ってましたか？

荻野 薬剤師職能の拡充について日本薬剤師会で作戦を考える。それを国の政策に反映してもらうためには、日薬と日薬連盟が車の両輪としてやらないと物事が進みません。そうした活動の必要性を理解していただくために、薬剤師連盟では、毎年、若手薬剤師を集めたフォーラムを開催しています。昨年も11月に福島で行いました。皆さんは、日本薬剤師会、日本薬剤師連盟って知っていましたか？

砂押 働き始めたころは日本薬剤師会も連盟もわかりませんでした。上司に誘われて茨城県薬連盟の若手の集まりに参加しました。そのおかげで少し連盟がどのような活動をしているのか知ることができました。薬剤師会の方は県とか市とかの勉強会に参加する程度です。

加藤 日薬は知っていましたが、日薬連盟は知りませんでした。まさか政治家の方と会ったりしているとは思ってなかったのです。そういう活動がわかったら、私たちももっと興味を持てると思いました。

秋葉 私も日本薬剤師会は知っていましたが、日本薬剤師連盟は知りませんでした。今回HPで調べて、連盟が日本薬剤師会の目的を実現するためにバックアップしているということを知りました。私たちが働きやすい環境をつくるために支援をいただけてうれしく思います。

児玉 日薬のことPRするために薬学



生ニュースというものを、関東薬学生連盟という組織の学生達が作っています。大学と実習先に年3回ぐらい、全員に行きわたるように1万部ぐらい作っています。チーム医療をテーマにして医学生と一緒にスマートフォンアプリをカッションをした記事が掲載されていましたが、面白いですよ。ある医学生がチーム医療の最終責任は医師と言ったら総攻撃にあった。薬学生が「チーム医療と言っているのに最終責任が医師なのか？みんな責任を持つんだよ。」と。

また、毎年アジア薬学会というのがあり、40歳までの薬剤師には補助金を出して行ってもらっています。今年はインドネシアでしたが、宣伝不足もあり全然枠が埋まらず、応募が3名でした。自民党幹事長の石破議員のお嬢さんが薬剤師でものすごく活発。インドネシアの薬学会にも参加したし、えらい人気だった。FIP(世界薬学大会)をオランダでやったときも一人で来ました。皆さんも機会があったらぜひ参加してください。

児玉会長に質問

荻野 児玉会長に聞きたいことなどあればどうぞ。

秋葉 薬業連携ですが、正直今一つ繋がっていないという印象があります。今後どのように働きかけていくのでしょうか。もう一つは、病院で研修中に、先輩薬剤師の方がフィジカルアセスメントができる方で、私もカルテ情報だけではな

く、自分自身で患者さんに触れて、どう改善していったらいいかというのをやらせていただいたことがすごく良い経験でした。薬剤師のフィジカルアセスメントを今後どのように広めて行くのかを教えてください。

児玉 病院薬剤師の集まりで病院診療所部会というのがありますが、先日、なぜ薬業連携が進まないかという議論がありました。一生懸命病棟で対応した患者さんが退院する、しかし、退院した後、通院ならいいが、せっかく病院薬剤師は患者さんの情報を持っているのに、在宅ではその患者さんがどうなっているのか全く分からない。一方、薬局では、病院から退院してきた在宅患者さんの薬の情報がないにもわからない。お互いにそう言っている。今後、薬業連携は絶対に必要です。議論に参加した人たちは中小病院の薬局長、薬剤部長でしたが、やっぱりそう思っているわけです。良い方向に議論を進めてゆけたらと思います。

フィジカルアセスメント。薬剤師がやるべきことは、医薬品の適正使用にかかわる業務に対して責任を持つこと。その観点から、薬が有効に働いているか、副作用は出ていないか、色々チェックをする。そのための薬剤師によるフィジカルアセスメントは、今の医療法、医師法でも問題ありません。薬物療法を進めるために必要があると認められる患者さんの体に触って脈をとること、血圧を測ることなど、この行為自体は法には抵触しない。間違っただけはいいのは、医師の診断の真似事をするのはダメ。「あなた高血圧ですね」なんてことを言い出すと医師法違反です。そうではなくて、薬物がどのように血圧等に影響しているか、ということをチェックするだけです。そこを外さなければOKだし、すべてできるでしょう。その延長線上に、TDMの

ための採血、それぐらいはやらせてくれと厚労省に要請している。アメリカなどは、薬剤師がワクチンの注射をする州もあります。日本もそういう時代が来ると思っています。

秋葉 私の病院でも、TDMで介入している患者さんで、カルテに採血結果を書き込んで、投薬のタイミングがずれているので、カルテで「この時にお願います」という風に書き込むと、それも医師が見てくれて変わることがあります。

児玉 平成7年の阪神淡路大震災の時に、私もボランティアとして参加したのですが、被災者に対して薬剤師は手伝い程度しかさせてもらえなかった。一昨年の東日本大震災では、医師はそこで診断するだけ。処方箋書いて患者さんに持たせ、あとは患者さんへのアドバイスなど薬剤師に全部任せてくれた。平成7年から平成23年の間でそれだけ変わった。6年制を機に、更に薬剤師の活躍の場は広がっていくものと思っています。

加藤 医師は医師、薬剤師は薬剤師で接点がないものと思っており、医師との関わりがいま一つ分かりません。震災でお薬手帳の重要性が評価され、薬局では勧めているのですが、お医者さんの方はどう考えているのか、薬剤師会では医師との交流の場がそういった話がたりするのでしょうか。

児玉 日本薬剤師会の立場でいうと、日本医師会との交流があります。問題は地域での繋がりが。地域では地区の薬剤師会、医師会がある。私が地区の薬剤師会の仕事をしていたとき、薬剤師会と医師会の連携がとれていました。しょっちゅう診療所の先生の所に行っていた話がありました。最近では、そうした関係がすごく希薄になってきている気がする。病院の前とか診療所の横とか1対1になりがちなんです。そうするとどう

しても医師に対し強気にいけないとか。コミュニケーションが取れている場合は全然そんなこと気にしなくていい。医師の方も意識が変わってきている。遠慮しないで付き合っていくべきです。できれば地域の薬剤師と医師で合同勉強会をやったりしたら良いと思う。

抱負・夢・若手薬剤師の思い

荻野 最後に一言、将来の抱負をお聞かせください。

秋葉 病院で、内服、注射、抗がん剤の点滴などをやらせていただいているので、それを活かして患者さんと付き合っていきたいと思っています。

加藤 まずは一人前になって、一通り仕事ができるようになって、患者さんとうまくコミュニケーションが取れるような薬剤師になれたらと思います。

砂押 患者さんが納得いくような情報提供などができる薬剤師になりたいと思っています。

児玉 我々先輩の薬剤師の責任として6年制教育の形を整え、とりあえず方向性はできました。みなさんは6年制1期生という立場で、まさにパイオニア。プレッシャーがあるかもしれませんが、頑張っただけだと思います。私はいつも若い薬剤師に会った時に、いい時代に薬剤師になったね、という。なぜかということ、薬剤師は、世界的には高い評価があり尊敬されているが、日本はまだまだ。しかし、これから皆さんが努力することによって、その可能性を追求することが出来る。もう一つは、この仕事は患者さんに喜んでもらうでしょ。感謝される仕事で、やりがいがある。色々現実とのギャップ等で悩むこともあるかと思いますが、薬剤師の誇りを忘れずに、頑張ってください。

歴史的な政権交代の幕開け



日本薬剤師連盟 幹事長 小田利郎

新年明けましてお目出度うございます。昨年末行われた第46回衆議院議員選挙はご存じの様に自公で全体の2/3を超える325議席を獲得し3年3カ月ぶりに政権交代を果たしました。薬剤師議員では、神奈川県1区の本純先生、大阪7区では現職の官房長官を大差で破った渡嘉敷奈緒美先生が小選挙区で当選いたしました。残念ながら現職の厚生労働大臣の三井雄雄先生(北海道2区)、逢坂誠二先生(北海道8区)、樋口俊一先生(大阪13区)は力及ばせませんでした。薬剤師連盟としては大変残念に思っております。

基本的には自民党支持を続けてきた中で今回の結果は一方では良かったと思っております。政権政党の内閣において渡嘉敷奈緒美先生が厚生労働政務官(厚生担当)、衆議院厚生労働委員会委員長に松本純先生がそれぞれ就任されこれほど素晴らしい事はありません。薬剤師の代表である参議院議員の藤井基之先生と強力なトライアングルで薬業界だけでなく社会保障全体の議論もして頂けるでしょう。本心に楽しんであります。今回の総選挙は今までの若手フォーラム参加者やそれぞれの地域の薬剤師連盟の皆さんが日本薬剤師連盟と強力なタッグで勝ち得たものだと思います。さて、自民党公約が選挙前に発表されておりますが薬剤師・薬局に関する事柄が具体的に多く書き込まれてい

まっています。①J-FAIR 2012 総合政策集より抜粋
・138 国民が安心できる持続可能な医療の実現↓かかりつけ薬局の充実・強化
医療に対する消費税の課税のあり方については医療機関・薬局の税負担の検証を行い、引き続き検討
・148 薬局・医療機関の薬剤師の機能、役割の拡充と積極的活用
・149 薬物の乱用防止の総合的推進
37 医薬品・医療機器の審査体制の充実強化
・109 自由貿易への取り組み(TPP) ↓国民皆保険制度を守る
・150 医療の効率化や国民の健康維持の観点から、後発医薬品の普及を図るとともにセルフメディケーションを推進する
・151 医薬品の流通体制の強化
なご是非この政権下で実行していたきたいと思っております。さらに夏には参議院議員選挙がおこなわれますが、自公で過半数を超えないと安定政権とはなりません。今回の衆議院議員選挙にあたっては小選挙区では自公が圧勝しましたが比例区では自民党はあまり増えていません。小選挙区においては第3極が乱立し各々が票を取り合ったため1人区では自民党が勝ちあがったのです。安倍総理大臣や石破幹事長が言われているように自民党が積極的に国民から支持を受けたわけではなく消極的選択であったという事です。参議院議員選挙に向けてしっかりと政策をもって国民が期待している経済の立て直し、社会保障の充実への足がかりを優先順位1位でやってもらいたいものです。それが実感となって政権交代した事が良かったと国民が思える事が参議院議員選挙に勝利する道だと思っております。それでは夏に向かって頑張りましょう。

指導者育成フォーラム 2012

2012年11月17～18日、福島県飯坂町ホテル聚楽において若手薬剤師指導者育成フォーラムが開催されました。各地よりあつまった135名の若手薬剤師が、薬剤師の将来について学び、考え、二日間語り合いました。



国会活動報告

藤井もとゆき参議院議員は、国家公務員薬剤師（医療職）の初任給はまだまだ低すぎることに言及。医療費改定や薬学教育の質の確保など、薬剤師の地位の向上のために、日頃の議員活動としてどう取り組んでいるかを示された。また『顔の見える薬剤師に』と我々の一目標として掲げられているが、もともと薬剤師というのは、顔が見えにくい職内容なのではないか、国民に対して職の理解を求めていくという意味においても、各々が現場で頑張るしかない。また具体策として、医療関係職種の特典受章のための働きかけなども、重要な議員活動のひとつと力強く発言された。

参議院議員

藤井基之



日薬の課題と要望

薬剤師会が現在直面している課題と、各党に要望している事項について説明が行われた。

分刻みのスケジュールで議員会館を回り、各議員へ薬剤師が直面している課題について説明し、理解を求めていること、また三井厚労大臣就任時に行われた要望について紹介された。

国会議員の委員会活動や質問主意書についても説明が行われ、制度ができていく仕組み、国会議員の働き

日本薬剤師連盟 幹事長

小田利郎



が解説された。また、現在取り組みが行われているお薬手帳の電子化についても概説されこれが一層、薬剤師の関わりが重要であることが説明された。

薬剤師職能と政治

日本薬剤師連盟

会長

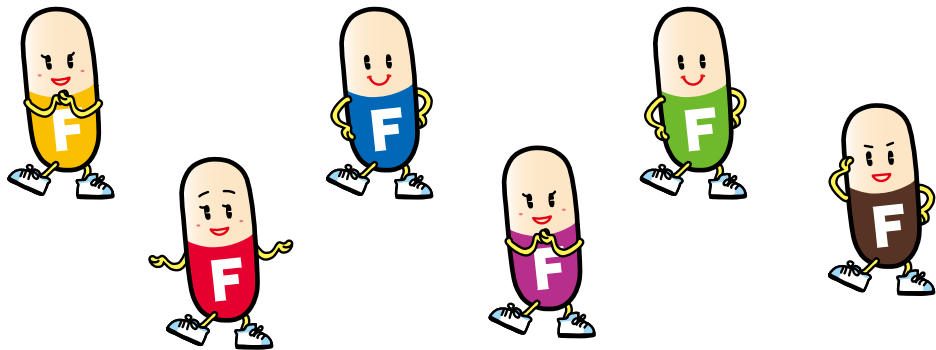
児玉孝

児玉孝日本薬剤師連盟会長は、薬剤師の職能と政治について説明。日頃行われている、各大臣への挨拶まわりなどのエピソードもあり、参加した若手薬剤師たちは話に引き込まれていった。また会長自身、支部での仲間作りが原点だったと紹介。全国レベルでの仲間作りを各支部に還元し、各々の地域を大切にしていくことが大切と力説された。また当日は、衆議院解散に向けてのニュースが飛び交う中でフォーラム開催だったため、薬剤師議員を我々の手で送り出すことの重要性和現実感がいつにも増して若手に伝わったようだった。



講演後、現役薬剤師でタレントの久保恵子さんの司会で懇親会が行われた。深夜にかけてのSGDでは各班、熱い議論が交わされた。





若手薬剤師指 Forum

第5回若手薬剤師指導者



2日目、午前9時から荻野常任総務の挨拶の後、昨夜のスムーズグループディスカッションの成果発表が行われた。薬剤師に関わる課題、将来の姿や連盟の組織強化について発表があり病薬との連携した薬剤師職能のアピール、薬剤師問題に対する危機感の共有化、本フォーラムの都道府県での積極的な開催や薬学生の参加の必要性等の声が多く聞かれた。発表者達は昨日の開会式の時の不安な表情は消え去りみんな生き生きと顔が輝いていた。

その後、参加者全員に修了証書が授与され2日間に渡る第5回若手薬剤師指導者育成フォーラムの幕を閉じた。



国会活動報告

松本純衆議院議員は、国民皆保険制度のことについて取り上げ、保険料未納などは、自身で国民の権利を捨てているのと同じであると主張。しかしながら、現行、保険料がきちんと払えるしくみになっているかどうかなどの問題点も指摘。責任を持つ政治の大切さを熱弁された。また、自分たちの夢が達成できるためには、どう政治と関わるか、現場で頑張る薬剤師たちと相互信頼をもとに、これからも双方で頑張っていくと、若手を決起された。

衆議院議員 松本 純



政治は被災者に対して何ができるか

参議院議員 森まさこ

森まさこ参議院議員は、地元福島県の出身。弁護士で、お二人のお子さんを持つ母親の顔ものぞかせながら、日頃の議員活動について述べられた。専門的立場だけでなく、生活者目線でやっているその姿に、多くの参加者の共感をよび、政治を一層身近なものと感じさせて頂いた。薬剤師に対して日頃より大変な信頼を寄せ、薬局の保険指定に関する取扱いについての要望などにも地元にて積極的に対応。東日本大震災時には、医療体制を支える薬剤師に対して、優先的にガソリンの供給を行う体制をとるなど、尽力された。



全国フォーラム参加者を中心に、全国各地でもフォーラムが開催されています。



秋田(2012/10/13~14)



長野(2012/11/11)



東京(2012/12/2)



宮崎(2012/12/8)

新年挨拶

新春を迎えて

参議院議員 藤井基之



日薬連盟だよりの読者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。お健やかに輝かしい新たな年をお迎えになられたこと、心よりお慶び申し上げます。

昨年四月には、長年にわたって待ち望んでいた、6年教育を受けた薬剤師が社会に巣立っていきました。長期間にわたる実務実習の経験により、患者さんの苦痛や他の医療従事者の働きぶりなどを目の当たりにし、これまでの薬学教育ではなかなか身につけることが難しかった知

識、技術、更には医療倫理に基づいて、自信を持って医療の現場で活躍していただいている姿が目に見えつつあります。

これからの薬剤師に求められるのは、病院においても地域においてもチーム医療への参加だと思います。特に在宅患者さんへの対応を支援するため、平成24年度政府予算により、無菌調剤が広く実施できるよう、在宅医療提供拠点整備事業が進められており、平成25年度概算要求にも計上されています。チーム医療、在宅医療に多くの薬剤師が貢献できるような国政の場から支援申し上げます。

最後に、平成25年が皆様にとりまして、素晴らしい年になりますことを祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。

年頭所感

衆議院議員 松本 純
厚生労働委員長



新年明けましておめでとうございます。児玉孝会長、はじめ、日本薬剤師連盟の役員並びに会員の皆様方には、お健やかに平成25年の初春をお迎えのこと、心から、お慶び申し上げます。

また、昨年末の総選挙におきましては、皆様方の力強いご理解、ご支援を賜り、政権与党の立場を奪還させて頂きましたこと重ねて感謝申し上げます。わが党の選挙公約「政権公約J-ファイル2012」において、薬剤師

薬剤師、飛躍の一年に！

参議院議員 はたともこ



日本薬剤師連盟会員の先生方に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

先生方には、日頃より一方ならぬご指導ご鞭撻を賜りまして誠にありがとうございます。本年が先生方にとりまして素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。念願の6年制薬剤師が社会に巣立ち、薬剤師への社会の期待は益々大きくなっていくものと思います。だからこそ厳しい評価も甘んじて受けなければならない立場となり、とり

まくなると環境の中で、薬剤師が社会から求められる理想像により近づくことが、何よりも重要であると思えます。

街かど薬局で気軽に相談にのり地域の皆様の健康維持増進に寄与する薬剤師、処方薬について適切な説明を行い患者様の誤った服用を防ぐ薬剤師、チームの一員として薬物療法の先頭に立ちながら気軽に患者様の相談にのる薬剤師、薬物乱用防止等で社会に貢献する薬剤師、様々な場面で職能を発揮し活躍する薬剤師の姿を国民の皆様にも広く理解していただくために、日本薬剤師連盟の活動は極めて重要であると考えております。

本年も尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

新年のご挨拶

衆議院議員 渡嘉敷奈緒美
厚生労働大臣政務官



日本薬剤師連盟の皆様におかれましては、新春をお健やかに迎えのなお慶び申し上げます。心よりお慶び申し上げます。

どんな時でも私を温かくも守って下さった日本薬剤師連盟の先生方や事務局の皆様として関係各位に衷心より感謝申し上げます。昨年末の総選挙に関しましては、皆様の大なるご支援を頂戴し、小選挙区当選での返り咲きを果たすことが出来たことを改めてご報告致します。

新年を迎えて

日本病院薬剤師連盟
会長 北田光一



新年明けましておめでとうございます。日本病院薬剤師連盟は、病

院・診療所に勤務する薬剤師の社会的な地位の向上と職能の拡大に必要な政治活動を行うことを目的として活動しております。具体的には、本連盟の目的をご理解いただき、私達薬剤師を応援して下さる候補者を支持・支援する活動をしてまいります。

昨年は薬剤師にとって節目となる年でありました。薬学6年制の最初の卒業生が誕生したこと、そして24年度診療報酬改定において、薬剤師の評価が非常に高くなったことが挙げられます。しかし、医療環境がますます厳しくなるなかで、薬剤師の役割は年々大きなものになってきており、喜んでおられない状況に変わりはありません。このような時にあって、私達の代表として薬剤師議員を国会の場に送ることは極めて重要であると考えます。日本病院薬剤師連盟として、そのための最大限の努力をしていきたいと思っております。

日本薬剤師連盟の方々との連携を密にし、ご協力をいただきながら目的の達成を目指したいと考えております。本年も引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

日本女性薬剤師連盟
会長 近藤由利子



新年明けましておめでとうございます。「Power」

平成25年新年号の刊行にあたりご挨拶申し上げます。一昨年の3・11災害以来、国内外からも支援運動が繰り広げられており、いたるところで「絆」という文字が見受けられます。「人とひととの断つことのできないうながら」は、我々薬剤師連盟にもいえることではないでしょうか。時には、楽しい音楽やリズム体操など、趣向をこらして明るい活動を展開し、連盟の「絆」を深めていきましょう。よりよい人間関係、よりよい協力関係は連盟力アップに繋がると思っています。

さて、いよいよ政情が動きはじめの気配です！ 諸外国では女性が政界の中央に出て、リーダーシップを発揮している映像が頻りに映し出されますが、残念ながら、わが国では女性リーダーの活躍場面をあまり見ることがありません。今後は女性の潜在能力を顕在化させるための気構え・努力が急務だと痛感しております。女性の国政舞台への進出を願ひし、25年の決意と致します。よろしくご鞭撻のほどお願い申し上げます。最後に日本薬剤師連盟のますますの「Power Up」を念じ上げます。

衆議院選挙に当選した、松本純議員は厚生労働委員長に、 渡嘉敷奈緒美議員は厚生労働大臣政務官に！

第2次安倍内閣発足、薬剤師議員の活躍に期待

12月26日、特別国会にて第96代首相に選出された自民党安倍総裁は、直ちに組閣に着手、同日中に第2次安倍内閣が発足しました。

同内閣において薬剤師議員では、5期目の当選を果たした松本純議員(神奈川1区)が衆議院厚生労働委員長に、また今回再び咲きを果たした渡嘉敷奈緒美議員(大阪7区)が厚生労働大臣政務官に任命されました。参議院厚生労働委員会委員で手腕を振るう藤井基之議員(比例代表)とあわせて、今後、医薬品のインターネット販売問題やドラッグストアにおける調剤ポイント問題など、本連盟が抱える様々な課

題に対し、強力な布陣で取り組まれることとなります。

先の衆議院選挙においては、自民党は公約の中で、「薬局・医療機関の薬剤師の機能、役割の拡充と積極的活用」と題し、セルフメディケーション普及のために、医薬分業の推進と地域薬局・薬剤師の業務を拡大することや、医薬品ネット販売での安易な規制緩和は行わないことを記しています。これらの観点から、本連盟としては、今後の薬事・厚生行政を含めた政権運営を注視しながら、薬剤師議員や関係機関と密接に連携し、行動をしていかなければなりません。

第46回衆議院議員選挙 結果報告

1 第46回衆議院議員選挙における薬剤師候補者の結果

当選	松本 純	5 期目	自民党	神奈川 1 区
落選	三井 辨雄	4 期	民主党	北海道 2 区
当選	渡嘉敷奈緒美	2 期目	自民党	大阪 7 区
落選	逢坂 誠二	2 期	民主党	北海道 8 区
落選	樋口 俊一	1 期	民主党	大阪 13 区
落選	本田 顕子	—	みんなの党	熊本 2 区
当選	西根 由佳	1 期目	日本維新の会	近畿比例 (大阪)

3 自由民主党薬剤師問題議員懇談会

衆議院議員88名-引退議員10名-落選議員1名=当選議員77名 ○内は選挙区(比)は比例区

都道府県	当選議員	選挙区(比)
北海道	⑤町村信孝(世話人)	
青森	④木村太郎	
岩手		
宮城	②秋葉賢也 ⑥小野寺五典	
秋田	②金田勝年	
山形	①遠藤利明	
福島	(比)吉野正芳(中国比例)に変更	
茨城	②額賀福志郎 ④梶山弘志	
栃木	⑤茂木敏充	
群馬	①佐田玄一郎	
埼玉		
千葉	③松野博一 ⑩林 幹雄 ⑪森 英介 ⑫浜田靖一	
神奈川	①松本 純(幹事長) ②菅 義偉 ⑩田中和徳 ⑪小泉進次郎 ⑬甘利 明 ⑭河野太郎	
山梨		
東京	⑧石原伸晃 ⑨菅原一秀 ⑩小池ゆりこ ⑫井上信治	
新潟		
富山	②宮腰光寛	
石川	①馳 浩 ③北村茂男	
福井	①稲田ともみ ②山本 拓 ③高木 毅	
長野		
岐阜	②棚橋泰文 ④金子一義	
静岡	④望月義夫 ⑥塩谷 立	
愛知		
三重	①川崎二郎 ④田村憲久(世話人) ⑤三ツ矢憲生	
大阪	(比)竹本直一	
滋賀		
京都	①伊吹文明(会長) ⑤谷垣禎一	
兵庫	⑤谷 公一	
奈良	②高市早苗	
和歌山	②石田真敏 ③二階俊博	
鳥取	①石破 茂 ②赤沢亮正	
島根	①細田博之 ②竹下 亘	
岡山	①逢沢一郎 ⑤加藤勝信	
広島	①岸田文雄 ③河井克行	
山口	①高村正彦 ③河村健夫(世話人) ④安倍晋三	
徳島	③後藤正純	
香川	①平井卓也	
愛媛	①塩崎恭久	
高知	①福井 照 ②中谷 元 ③山本有二	
福岡	⑧麻生太郎 ⑩山本幸三(世話人)	
佐賀	②今村雅弘 ③保利耕輔	
長崎	③谷川弥一 ④北村誠吾	
熊本	②野田 毅 ③坂本哲志 ⑤金子恭之	
大分	②衛藤征士郎 ③岩屋 毅	
宮崎	②江藤 祐 ③古川禎久	
鹿児島	④小里泰弘 ⑤森山 裕	
沖縄		

平成24年12月27日現在

2 第46回衆議院議員選挙における日本薬剤師連盟推薦候補者の勝率



平成24年度

第2回全国会長・幹事長拡大会議開催

2012年11月14日(水)、東京・東京會館「ゴールドルーム」において、平成24年度第2回全国会長・幹事長拡大会議が開催された。

児玉会長、藤井基之参議院議員の挨拶のあと、座長に山口県薬剤師連盟若松会長が選出され、議事が進行された。会議では、本連盟の最近の活動状況について報告され、現在各都道府県で行われている若手薬剤師フォーラムの開催状況や11月10日九州ブロックを皮切りに行われた本年度ブロック協議会の主旨と内容、政治資金規正法に基づく収支報告書の記載方法等について説明が行われた。出席者からは、保険調剤分へのポイントサービスの現状や見通し、今後の消費税の対応など薬局・薬剤師を取巻く状況について熱心な質問が交わされた。また協議においては、今後の連盟活動および衆参議員選挙の対応について説明が行われ、本連盟の政治的課題をどのように推し進めていくのか、政局の動向を注視しながら対応を見極めていくこととして具体的な方針が述べられた。

会議途中に、衆議院の党首討論において、野田首相(当時)が11月16日解散を表明したことが伝えられ、衆議院選挙に臨む、連盟の基本方針、選挙に当たっての留意事項等が説明された。

【藤井もとゆき君と語る会開催】

11月14日(水)午後6時より、東京會館「ロイヤルルーム」において、「藤井もとゆき君と語る会」が開催された。

当日は同施設にて、本連盟の第2回全国会長・幹事長拡大会議が開催されており、本連盟参加者も含めて550名を超える支持者で会場は熱気に包まれた。語る会は薬剤師である渡嘉敷奈緒美前衆議院議員(当時)の司会で進行し、発起人代表である本連盟児玉会長の挨拶に続き、来賓の健保連、福祉、製薬、卸業の代表者から激励の言葉が向けられた。薬剤師議員仲間である松本純衆議院議員の発声により乾杯、音楽の調べとともに参加者は親睦を交わし、秋の夜を過ごした。



当選後の活躍は目覚ましく、昭和60年医療法改正で地域医療計画の記載事項に薬局を盛り込む、昭和60年医薬分業モデル事業を実現、平成4年医療法改正で薬剤師を医療の担い手として位置づける等々の実績を残されました。また、平成9年には環境庁長官就任、同年開催された第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3)において京都議定書の締結にも尽力されました。先生のご尽力に感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

石井道子先生、逝く
多くの功績を残されて

2012年12月7日、元環境庁長官、元参議院議員・薬剤師の石井道子先生が逝去されました。先生は、昭和30年、東京薬科大学を卒業され、薬剤師免許を取得されました。昭和59年、日本薬剤師連盟の組織内候補として、全国会員の期待を担って参議院議員選挙に立候補、初当選され、平成13年7月まで、国政に携わられました。

吉永富子
日本薬剤師連盟監事 逝去

おぐやみ申し上げます

若手薬剤師の夢

～第5回若手薬剤師指導者育成フォーラム参加者より～

私の薬剤師としての夢は、薬剤師が皆医療者としての自覚を持ち、患者さんのためという一つの方向を向けるようになることです。

薬剤師の存在意義を患者さんに理解していただくために、必要なことだと考えております。薬剤師の意識を統一するために、まず、コミュニケーションの場を提供できたらと思います。また、自分も研究や広報活動などを通して積極的に他の方々の牽引役を担える存在を目指したいと思います。

(38歳/男性)

これまで一人でも多くの患者と触れ合う事、調剤業務のスペシャリスト及び医療のジェネラリストとしてチーム医療に参画することでした。現在は上記に加え、一人でも多くの薬剤師が自らの職能を十分に発揮できるような、また薬剤師になって良かったと本心から思えるような環境を作りたいと思います。そのためには薬業連携をはじめ多職種の方々とコミュニケーションの機会を増やし、同じ考えを持つ集団を作ることが必要です。

(35歳/男性)

私の夢は、薬剤師がもっと広く地域住民に貢献できるようになることです。

薬剤師は、地域の医療のみならず、その前段階である治療前の方々への貢献、また在宅などを通して、まさにその方の最後までに関わることが出来る職業であり、医療職の中で一番長く、人生に貢献できるはずで、研究や教育を含めもっと広く様々な分野での活躍を通して、今以上に求められる薬剤師になりたいと思います。

(39歳/女性)

在宅医療に積極的に参画し医療の資質向上を図ることで、患者さんからより身近な存在として認知されることです。また、在宅医療を進めるためには医師をはじめとする他職種との連携が不可欠であるため、連携を通して他職種に貢献したいと考えます。薬局内だけで得られる知識等には限界があるため、連携をする上で新たな知識、在宅で求められることなど幅広い情報を収集して社会のニーズに応えられる存在になりたいです。

(27歳/男性)

Dr.の顔色を見るのではなく患者さんの顔色(体調など)を見る薬剤師になる。そのためには私達薬剤師全体の職能レベルの向上はもちろんのこと、医師法22条の但し書き等の法改正が必要だと思います。このフォーラムに参加し私が目指す未来のためには孤軍奮闘するのではなく、仲間を募り共に頑張る必要があるとわかりました。私達が今置かれている現状を学べた事や仲間を作る感動等を地元で伝えていきたいと思っています。

(40歳/男性)

私の夢、目標は研究で成果をあげることです。薬剤師が行う研究は今まで基礎科学が多かったのですが、実臨床に根ざした研究をもっと多く世間に発表することで、国民に薬剤師の姿を見せることにつながっていくと考えています。現在は服薬する患者様の身になってどうすれば服用し易くなるか研究を始めたところです。それを論文にして発表するのが目下の目標です。いずれ大規模な研究に発展させていくのが夢です。

(34歳/男性)

数年前の薬局の在り方と現在の薬局の在り方が大分、変わりました。お薬というのは、身近なもので、処方薬をはじめ、サプリメント健康食品、患者様の生活背景まで普段から気軽に相談にのってあげられる、地域密着の薬局がチェーン店(大型)が広がった事で減ってきていると思います。お薬手帳、GE医薬品、緩和ケア在宅と進化していく中で、そういった患者様(市民の方々)に愛される薬局作りをしていきたいと思っています。

(30歳/女性)

地域に根づいた薬剤師になりたいです。患者様のために何が出来るのかをまず第一に考えルーチン業務から脱却し、個々の患者様のニーズに合わせた接し方が出来ればと思います。地域により対応が違ってくるので情報を共有化する事でいいものを取り込める環境を作ればと思います。また、今のモチベーションが生涯続くように意識を持ち続けたいです。患者様から初めて「ありがとう」と言われた時の気持ちを忘れてはいけません。

(28歳/男性)

患者さんの為の薬剤師。最も身近で何でも話せる薬剤師を目指し、一人ではなく、少しずつ人数を増やし、いずれ日本を動かすようなそんな薬剤師になる。又、育成する立場になっていけたらいいなと思います。

いくら現場で声をあげても政治が変わらなければ何も変わらないので、薬剤師の代表を選んで、応援していこうと思います。もし代表が誰も居なければ、自分が……位な気持ちで。

(31歳/男性)

自分の子供が「薬剤師になりたい」と言ってくれるようになること、またなりたいたいと思えるような薬剤師になる。薬剤師を作っていくことです。超高齢化社会の日本は、医療が崩壊するのではないかとされています。薬剤師は医師の処方がないと調剤できません。医師ありきの医療を行うのではなく、薬剤師自ら医療を行えるような環境にしていき、将来を担う子供達が憧れるような薬剤師という仕事にしたいと思っています。

(28歳/男性)

地域の中で必要とされる薬剤師になりたいと思います。患者はもちろん、医者や看護師からも必要とされ、チーム医療の要となることで、これからの高齢化社会、在宅のニーズにも対応していけるのではないかと思います。そのために必要な、薬に対する更なる知識、自分の所属する地域以外での取り組みなどを積極的に吸収し、自分の地元である福島のためにも一歩踏み出し続けていきたいと思っています。

(36歳/男性)

地域のお薬の先生、健康の先生のような存在になりたいと考えています。学校薬剤師、健康教室など地域に根ざした薬局を作りたい。

(29歳/女性)

もとゆき Report

藤井もとゆき

国会レポート



政権奪還で新春を迎える

国会においては、昨年11月16日に衆議院が解散となり、12月16日の総選挙の結果、我が自民党は3年ぶりに政権を奪還することができました。選挙前の118議席から、294議席に伸ばすことができ、単独過半数をいただくことができました。また、公明党と連立することで320議席を超えることになりました。しかし、今回の大勝利による政権奪還を成功させた自民党が、3年前の民主党政権誕生の轍を踏まないようにしなければならないことは言うまでもありません。

新たな政権は、民主党政権のもとで停滞していた多くの政策課題に的確に取り組まなければなりません。具体的には、進行する少子・高齢化への対応、長期化する経済停滞への対応、東日本大震災・原発事故に伴う被害からの復旧・復興、普天間問題を巡る日米関係の改善、尖閣諸島・竹島・北方4島の領土問題、TPPへの参加問題等、文字通り山積している政策課題に誤らず対応していかなければなりません。衆議院議員選挙で掲げたJ-ファイル2012の内容は、すべて実現できるものであり、着実に実行していくこととなります。今後は与党という立場で責任を持って政策の実施に向けて進んでいくこととなりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

広報委員

中本 行宣、生田 泉太郎
渡辺 徹、大橋 均
根本ひろ美、大澤 泰輔
豊見 敦、抜井 留理子

「百聞は一見にしかず」あなたも「目からウロコ」を体験してみませんか?
(O.T.)

また、福島県飯坂温泉にて開催された「第5回若手薬剤師指導者育成フォーラム」取材してきました。集合時間に集まってくる参加者の顔には期待と不安の入り混じった表情(不安の方が大きい?)が感じられ、第1回目に参加した時のことを懐かしく思い出したと同時にその時の一緒だった参加者が今や主催者側のスタッフとして活躍していることにこのフォーラムの意義深さを感じました。

その影響で我が県薬業連盟で企画していた衆院選候補者3名を招いて薬剤師に関わる問題を考える「政経セミナー」が投票日前日の12月15日だったため延期となってしまいました。そのおかげで3名とも胸にバッジをつけて参加してもらえることになりました。

11月14日の午後から開催された「全国会長幹事長拡大会議」の最中に突然、16日に衆議院を解散するとニュースが飛び込んできました。「近いうち」という言葉が流行語になって久しく、きな臭い匂いはあつたものの解散は年が明けてからという一部の予想を覆すセンセーショナルな出来事でした。

編集後記

